

私の思い出



飯田 矢口 博一

私は、昭和12年、神城飯田で農家の長男として生をうけ、今日まで白馬村に住んでいます。神城小学校2年の時に第2次世界大戦が終戦となり、食べ物満足にない貧しい時代から、東京オリンピック、白馬での冬季オリンピックなどを契機に高度成長期、そしてバブル景気の崩壊など目まぐるしい変遷を経験しました。

家の造りは萱屋根で、広い居間、座敷、馬屋から構成され居間の中心に「いろり」が切っており、天井からは「自在かぎ」が下がり、湯沸し、鍋などを吊るし、食べ物を煮炊きし、また食事の場所、近所の人とお茶を飲みながらの交流の場所でした。冬は外仕事ができ

ないので、暖をとりながら農作業に使う縄、米俵、むしろ等を作る父母の姿が思い出され、いろりは農家にとって一番大切な所でしたが、現在では生活様式が変わり、姿を消してしまいました。

現金収入の為、蚕を飼い、雨が降ろうが風が吹こうが、一日も休まず桑を摘む大変な仕事でした。蚕は、3回に分けて飼育し、成虫になると「まゆ」作りをする専用の棚に1匹1匹移動させるといふ、家族総出の仕事でした。家の中は蚕棚や桑置き場に占められ、居場所がないお蚕様様の生活でした。

米作りでは、人の手と牛馬の力が農家の主役でした。馬耕、代かき、一家総出の田植え、秋には実った稲を鎌で1株1株刈り、束ね、馬の鞍の片側に3束ずつ、計6束縄で取り付け、手綱を引いて家まで運びましたが、何回も往復すると馬も道順を覚え、私は馬の後

からついていったものです。当時、学校では田植え休み稲刈り休みが定められ、子供も重要な働き手の一員としてあてにされ、一生懸命に手伝いをしたもので、それが当たり前前の時代でした。学校卒業後は会社員となり、勤めながら仕方なく田んぼ作りをしてみました。退職後は徐々に興味が増え、近所の先輩から肥料の量、水の管理を教わり美味しい米作りに挑戦しています。

○議会だより100号の訂正とお詫び

下川正剛議長の記事、議会報第1号の発刊が「平成2年」となっておりましたが、正しくは「昭和62年」の誤りです。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

平成24年 第2回 白馬村議会臨時会

平成24年7月2日 開催

下水道受益者負担金問題調査特別委員会設置！

●発委第9号

公共下水道受益者負担金問題調査特別委員会の設置に関する決議について

▽賛成全員により可決

公共下水道受益者負担金問題調査特別委員会

平成24年7月2日開催

- 1、設置の目的
公共下水道受益者負担金問題に関する調査
 - 2、委員定数
議長を除く議員全員
 - 3、正副委員長の選出
委員長 松沢貞一
副委員長 田中榮一
- 設置にいたる経過について
- 村の公共下水道事業は平成元年度から事業着手し、平成17年度に敷設事業が終了しま
- した。議会では、過去に一般質問で3回にわたり下水道受益者負担金の未収などについて質問を重ねてきましたが、今回、行政の内部調査により、未収、滞納及び時効問題が明らかになりました。そこで6月中に2回の議員懇談会を開き、行政から経過や状況について説明を受けてきました。極めて重要な問題ととらえ、臨時議会を開いて特別委員会を設置したものです。